

# 参画と協働の地域づくりと地域コミュニティに関する考察

兵庫大学健康科学部

小林清美

兵庫県立大学環境人間学部

福島 徹

## 1 はじめに

わが国の地域社会は地縁・血縁で強く結ばれ、個人や家族では解決できない様々な問題を解決する役割を果たしてきた。しかし、1960年代からの工業化・都市化で伝統的な社会関係は崩壊し、地域社会が担ってきた相互扶助的な機能をも公共や民間のサービスが代替する等、個人と地域との関わりは希薄化してきた。

こうした中で、地域における実践的活動を通して、緩やかな横の繋がりを形成し、コミュニティを再構築する試みが始められている。このような住民が主体的に取り組む参画と協働の地域活動は始まったばかりであり、その活動の展開において、さらにコミュニティ形成という点からも多くの問題を有している。本研究では、地域活動の内容と地域コミュニティの実態について調査し、分析を加えることによって地域活動の抱える課題の整理と住民が地域活動をどのように考え役割を果たしているか、また、地域リーダーがどのようなリーダーシップを発揮して活動を展開しているか等、地域活動のあり方を考察した。

## 2 参画と協働の地域づくりの課題

参画と協働による地域づくりは、住民に趣旨が十分浸透して取り組まれているとは言えず、次のような課題があげられる。(1)行政とのパートナーシップは始まったばかりであり、まだ十分な連携ができていない。(2)住民が解決に取り組まなければならない、諸施策への参画と協働への関心は低い。(3)地域の中でお互いに支え合う連帯の意識が薄く、近隣の付き合いも希薄化している。(4)世話役やリーダーになる人が少なく、育成も十分に行われていない。(5)地域で活動している組織・団体の交流や連携が十分行われていない。(6)地域づくりの情報の提供が十分でなく、また収集や活用がうまくされていない。(7)地域活動の専門家や経済的支援制度が有効に活用されていない。(8)地域活動に無関心であったり、消極的な人達への対応が十分ではないといった点が指摘できる。そこで好ましいコミュニティの資料とするために、調査においては次の内容を構成とした。

## 3 調査の概要

### (1)調査目的

地域社会を形成する住民が、日頃から近隣とどのような関係を保ちつつ、生活していこうとしているのか、地域づくりをどのようにとらえ、その活動主体は誰が好ましいと考えているか等を調べ、住民主体の地域づくりをどのように推進していくのが良いか、何を必要としているのかをまとめる。さらに、地域リーダーに対して、自治会の役割や地域づくりの主体、活動における課題や今後望まれる支援等を調査し、地域づくりに対する自治会の役割や活動上の諸問題を明らかにする。

### (2)調査方法

地域住民の調査は、H市内4地域を対象として平成15年12月にアンケート調査をした。4地域の内、SとKの2地域は、参画と協働の地域づくりに取り組んでいる地域で中高年齢層が多く、AとDの2地域はデベロッパーにより開発された地域で、Aは平成9年に開発された地域で30歳代が多く、Dは昭和44年で60歳以上が多い地域である。

アンケートは世帯の内一人、主として近所づきあいにあたる主婦等に記載してもらい、調査票同封の返信用封筒により郵送回収した。対象者973世帯に対し386世帯(39.7%)から回答があり、併せて調査地域の自治会長に聞き取り調査をした。地域リーダーは、地域の中で活動をおし進めている自治会長57人に対し、平成16年1月郵送で依頼し郵送で43人(75.4%)から回収を得た。

### (3) 調査結果と分析

アンケート調査結果と、関係者へのヒアリング等を分析し、次のような結果と課題を得た。

#### 休日の過ごし方

表1 休日の過ごし方 (%)

休日の過ごし方	大体そうだ	時々そうだ
家族と一緒に過ごす	295(76)	44(11)
親戚との交流	11( 3)	184(48)
職場関係の友人過ごす	3( 1)	59(15)
地域の知人と過ごす	13( 3)	130(34)
同趣味・サークル活動	58(15)	109(28)
自治会子ども会等活動	9( 2)	125(32)
環境福祉ボランティア	8( 2)	62(16)
ひとりで休養出かける	78(20)	120(31)

住民が地域活動に参加しやすい休日は、8割近くが家族と一緒に過ごしている。自治会・子ども会、環境美化・社会福祉等の活動へは、地域活動として決められた活動に義務的に参加している状況である。

治水事業におけるふれあい憩いの場づくり活動への参加者の多いS地域では、休日に大人や子どもも一緒に参加でき、楽しめる企画がもりこまれており効果をあげている。今後は、家族ぐるみで参加でき、楽しめる内容を検討して、地域の問題に関心を持って貰うようにすることも必要である。

#### 近隣の付き合い

表2 近隣の付き合い (%)

付き合い	現在の付合	望む付合
顔もよく知らない	4( 1)	0( 0)
出会えば挨拶する程度	103(27)	26( 7)
時々立ち話をする程度	145(38)	75(19)
留守中の事頼み合える	99(26)	184(48)
親しく訪ね合う間柄	23( 6)	27( 7)
相談や助け合う間柄	12( 3)	74(19)

地域における最も基礎的な関係である近隣付き合いは、現在は時々立ち話をする程度の形式的な付き合いが多く、今後、留守中のことなど頼み合えたり、親しく訪ね合い、困った時に助け合う密度の濃い付き合いを望んでいる。

住民は近隣で助け合うことを望んでいることから、それぞれの地域における課題等を共有し、解決策を話し合えるきっかけの場を検討していくことが必要である。

#### 地域における交流や活動の程度

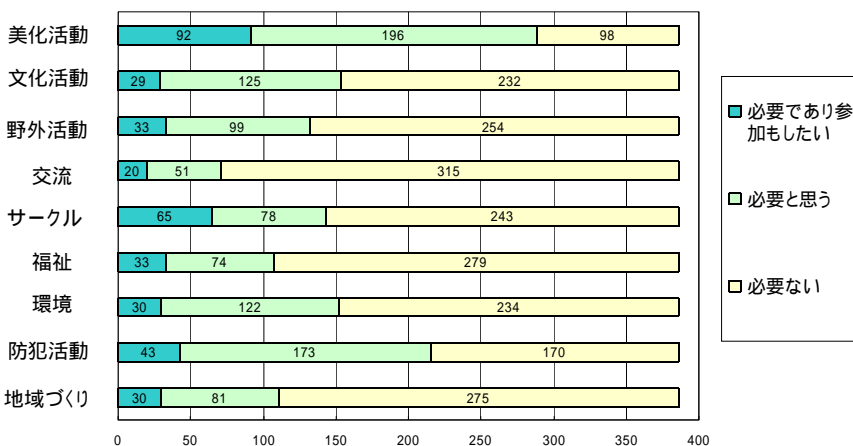
表3 地域の人々との交流や活動の程度 (複数回答)(%)

交流や活動の程度と考え方	件数
近所付き合い交流や地域を良くする協働は不可欠	220(57)
困った時など助け合える付き合いがしたい	190(49)
一人住まいの年寄りに声かけ支合う交流望ましい	189(49)
災害時など助け合えるような付き合いが必要だ	287(74)
近所付き合いは適度な距離において付き合いたい	156(40)
近所付き合いは煩わしい事が多いのでしたくない	6( 2)

地域では、災害時など助け合える、地域を良くする協働は不可欠であるとの考え方が強い。反面、適度な距離において付き合いたい人も多い。

今後は、災害等の危機管理の面からも、近隣で助け合ったり支え合うことは重要なことであるから、安心できる地域づくりに向けて、住民が合意を図りながら取り組んでいくことが重要である。

#### 地域における活動の必要性和参加状況



地域活動を必要と考えている人は少なく、その内、美化活動や防犯活動は多く、また、参加したい活動は美化活動が多い。住民は、近隣付き合いや、地域における交流や活動は深い関わり合いを望んでおり、さらに、地域づくりも住民が主体となり取り組むという回答は多いが、望んでいる意識が行動にまで至っていない、行動に結びつけようなきっかけが必要である。

図1 地域における活動の必要性 (複数回答 数字は人数)

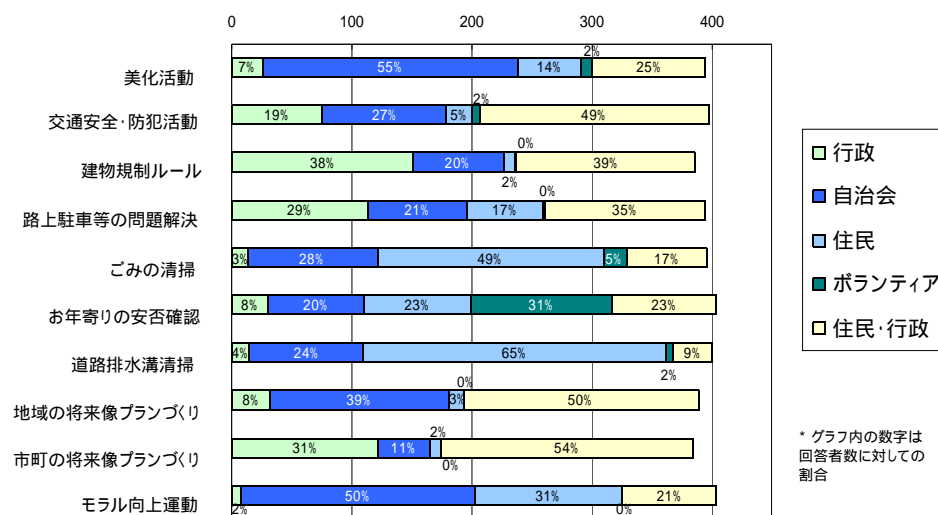
## 地域に住んでいて困っていること

表4 地域に住んで困っていること(複数回答)

困っている内容	件数
隣近所とのめめ事がある(あった)	45件
隣近所との付き合いがうまくできない	20
地域問題はどこに行けばよいか分からない	49
女性若者、地域等で発言しづらい雰囲気	54
その他(大型店舗進出による居住環境悪化等)	40

古くからの集落のSとK地域は、女性や若者が地域で発言しづらい雰囲気があり、居住5年目のA地域は、地域問題の相談場所が判らないが多く、大型店舗進出による居住環境悪化を心配している。それぞれの地域に特有の問題があり、住民同士で課題解決を図っていくことが必要と考えられる。

## 地域づくりの活動は誰が取り組むべきか



地域活動の主体について、住民と地域リーダーに同じ設問をした結果、住民が主体的に取り組む意識は、地域リーダーより高い回答であった。しかし、住民意識が行動にまで至っていないので、行動に繋がるような取り組みが必要である。地域リーダーは、現在多くの活動に関わり、自分達に取り組む意識は高いが、住民が主体的に取り組む地域づくりの検討が必要である。

図2 地域づくりの活動主体(住民対象 複数回答)

## 活動経験と支援を活かす地域づくり

地域活動経験が最も多いのは、周辺の清掃や草むしり、自治会行事への参加で、次いで、子ども会・PTAや自治会などの役員も多い。活動経験を活かして、地域活動が継続的に展開するような行動が望まれる。少ない経験は、福祉ボランティアや地域課題解決のための行政交渉であるが、超高齢化を迎え地方分権の社会において、これらへ積極的に参加して安心して住んでいけるように、意識の転換を図られなければならない。

## 自治会長からみた自治会の役割と活動

表5 自治会の活動内容(複数回答)(%)

自治会の活動内容	自治会役割	現在取組中
行政機関からの依頼事項連絡、配布	17(40)	43(100)
自治会員同士が顔をあわせ交流会や懇親旅行	19(44)	36(84)
地域での災害時の助け合い	34(79)	22(51)
お年寄りの話し相手になる地域で支え合う活動	19(44)	29(67)
集会施設の維持管理をする	22(51)	39(91)
地域の抱える問題相談や解決のための場づくり	25(58)	33(77)
文化リレーション活動	17(40)	34(79)
祭りなどの地域の文化継承し育む活動	20(47)	42(98)
子どもを育てスポーツクラブや野外活動	15(35)	33(77)
ゴミステーションの管理や分別収集活動	20(47)	43(100)
地域課題解決の行政機関に対する要望・陳情等	21(49)	42(98)
住民で対応できる道路、街路灯の整備・修繕等	19(44)	39(91)

自治会の果たす役割は、「災害時の助け合い」「相談や解決の場づくり」「集会施設の維持管理」「行政機関に対する要望・陳情」が多かった。これらの活動は、現在、自治会は積極的に取り組んでいるが、自治会長の認識としては、自治会のやることとは思っていない、行政から頼まれて、仕方なく取り組んでいるという状況である。

自治会は、行政からの依頼業務に追われるのではなく、住民の役割を検討して、地域の問題を住民が主体となって取り組む地域づくりへと見直してい

く必要がある。

## 地域活動の問題と解決策

自治会長の立場で地域活動を展開上の問題点は、地域住民について、「これまで住んでいた人と新たに移り住んできた人との交流が難しい」、「事業への参加意識が低く、協力が得られない」、「犬糞の不始末等、住民マナーが悪い」等があげられていた。課題対策として、住民の参加意識向上のため、「年間計画の周知や放送・町内ニュースによる啓発」や、「定期的な役員会で、地域の実情や要望を把握して必要に応じ放送・回覧等により啓発」が取り組まれている。今後は、住民が議論できる場を設け解決することも必要である。

### 自治会活動を展開するうえでの要望(自由に記載)

自治会長の要望は行政に対するものが多く、住民からの要望や課題解決に努力して欲しい、パソコンの支給、活動費助成の増額、県と市の総合窓口の設置、住民で解決困難な事は行政が対応する、政策策定へ住民が参加できる仕組みが必要である等であった。住民に対しては、安心・安全なまちづくりを推進するには全戸加入が望ましい、単位自治会長(785単位)へは、地域リーダーとしての自覚と行動が望まれる等であった。要望内容を連合自治会の事務局と話し合ったところ、既に取り組まれていることもあるが、地域の問題としてもっと住民が主体的に取り組むことで解決していく問題もあった。

## 4 好ましいコミュニティの形成

今回、参画と協働の地域づくりに取り組んでいる2地域と、そうでない2地域を対象として、地域活動の内容と地域コミュニティの実態について調査した。参画と協働により展開しているS地域は、地域を流下する河川の自主的な維持管理に取り組んでおり、K地域は狭隘道路の整備等に取り組む等それぞれ効果をあげている。しかし、行政の強力な支援により地域リーダーやリーダーを支える人達が、地域づくりの重要性を認識して取り組んでおり、住民が主体的に取り組んでいる状況ではない。今後は、住民が関係者と連携を図りながら問題を議論し、地域の実情に応じた取り組みが必要であり、好ましいコミュニティの形成を目指して次のような取り組みが必要と考えられる。

地域住民に関することとして、(1)住民同士が助け合いや支え合える地域づくりを目指して、日頃から話し合える場を設け地域づくりを気軽に学習できる機会を設けていく。(2)住民が自発性や創意を育みながら地域づくりに取り組む。(3)地域問題は、長い期間をかけて合意形成を図りながら取り組むことが重要であり、また、地域活動に消極的な人へは、理解を深めるような行動も必要である。地区組織や行政等に関連することは、(1)地域づくりは、卓越したリーダーの存在のみで創られるのではなく、地域リーダーを支える機能的な小集団の存在も重要であり、リーダーの育成と能力を高めることが必要である。(2)コミュニティは、全戸参加型の活動と、ボランティアやNPO等の有志参加型の活動等が行われているが、地域活動組織の交流の拠点づくりとネットワーク化を図り、地域活動を効率的・総合的に展開することが重要である。(3)活動に必要な情報提供を行い情報の共有化を図り、地域の課題は地域住民の共通の関心事として議論を深め、地域づくりを住民の主体的な活動として発展させていくようにする。(4)現在行われている地域づくりへの支援制度を充実して住民への周知を徹底し、必要に応じて地域プランナーを導入し、住民の満足感・参加意欲をアップさせていく等が重要である。それぞれの地域において、住む人達の年代や家族構成も異なり、課題への対応も多様であるが、地域特有の課題に応じた取り組みを住民が主体的に取り組めるような体制の整備や支援等が急務である。

## 5 おわりに

今回の実態調査では、住民は近隣との付き合いを現在よりさらに深めることを望んでおり、地域の人々との交流やふれあいの程度も、支え合いや助け合う地域を望んでいる。しかし、支え合う地域をつくっていくうえでの重要な地域活動について、必要性を感じている人も少なく、参加したいとは考えていない。また、地域リーダーは、行政の補助的な業務に追われ、地域の将来像や抱えている問題の議論や検討するところまでには至っていない。地域において、諸問題に対応していくには、一人ひとりが住んでいる地域に眼を向け、住民同士が横のつながりを持ちながら、諸問題を議論し課題に取り組んでいくことが必要である。